

まんだら通信

平成19年(2007)08月 佛誕2573年

お盆と精霊棚

お盆になって、写真のような『お棚』、つまり精霊棚を作る家が少なくなってきました。以前は、お盆が終わって海岸や集落の外の、昔から決まった場所に捨てて(しろうろう様を送るといいました)いましたが、地域的美観を損ねるからという理由からだと思いますが、それなら作ることを止めれば良いと思う人が増えたからでしょうか。

その形は、地方によってさまざまかと思いますが、この辺りではその年に生えた篠竹で作った写真のような鳥居型の『お棚』の上の部分に添わせられた縄に、色とりどりの御幣やホオズキ・稲穂・ササゲなどをさして、柱にはスギの葉やカヤを結びつけます。

そして、里芋の茎、つまり『芋がら』を柱の部分に添わせますね。

また、サツマイモ・キュウリなどのその年の野菜や果物を、里芋の葉に載せてお供えます。

最近では、『しろうろうさまの馬と牛』はキュウリとナスが多いのですが、以前はどこの家でもちがやで作りました。

そして、八月十三日の夕方には玄関の前にたらいに水を張って、長旅で帰ってきたご先祖の足を洗う水を用意し、迎え火を焚きましたね。

昨日までと違って、急に華やかになった仏壇を見ると、「お盆が来たなあ」という実感が湧いてきます。

私が育った大台の家では、「方丈さま」がお盆のお経を上げに来る時は、みんな後ろに座って神妙にしていたことを思い出します。



ご近所の鈴木大次さんに作っていただきました

終戦記念日

あの日、昭和二十年八月十五日は抜けるような夏空でした。
十二歳、国民学校(今の小学校)五年生だった私にも、敗けたらどうなるのという実感はなかったと思いますが、戦後生まれの人たちにはそれ以上に、あの戦争についての実感が無いのではないのでしょうか。

こんな実話があります。

撃墜王といわれた坂井三郎という人が、東京の石原知事に教えてくれたことだそうです。

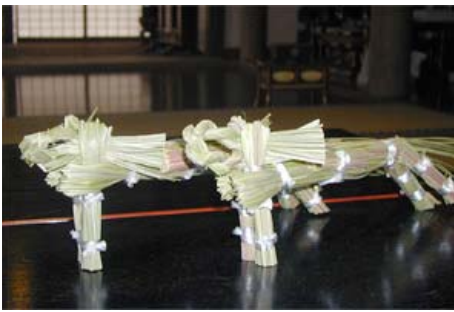
十数年前の電車の中でのこと。坂井さんの前に座った大学生が「おい田中、知ってるか。五十年前、アメリカと日本が戦争したんだってよ。」田中君「えっ、ほんと。マジ?」「マジだよ、お前。」

「マジか。で、どっちが勝ったの?」
「というものだぞうです。」

これは、多分極端な話で、日本とアメリカやヨーロッパとが戦争をした『太平洋戦争』(正式な言い方は、大東亜戦争だそうです)を知らない人はまれだと思いのです。が、「東条首相を初めとする戦争犯罪人など、ごく一部の人たちが悪者だったから、してはいけない戦争をしたのだ。」と思っている人が、今でも沢山います。

これは、GHQ(連合国軍最高司令官総司令部)の方針や『東京裁判』が関係していると思えますが、占領が終わった後も繰り返し教育されてきた結果でしょう。

その証拠に、戦後の歴代の政府は色々の



平成13年に、西横渚の上村静枝さんが古式通りに作って下さったものです。お役所風に言えば貴重な『民俗的工芸品』です。

名目で、世界中に天文学的な援助金を配ってききました。これには、おわびの気持ちが入っているものも多いのではないかと思うのですが。
特に一部の国では『靖国神社』、『従軍慰安婦』、『河野談話』などが、まるで打ち出の小槌のような、或いは黄門様の印籠のような切り札にさえなっています。

然し、別の資料で見ると全く違う戦争の姿が見えてきます。

昭和二六年九月のサンフランシスコ対日講和会議で、セイロン代表のJ・R・ジャヤワルダナ蔵相(後に大統領)は、日本の大東亜戦争の真意について述べ、「自由にしてかつ独立した日本」が復活することを強く望むと演説した。

「アジアの諸国民はなぜ、日本が自由になることを切望しているのか。それは、アジア諸国民と日本との長きにわたる結びつきのゆえであり、また、植民地として従属的地位にあったアジア諸国民が、日本に対して抱いている深い尊敬のゆえである。往時、アジア諸民族の中で、日本のみが強力かつ自由であって、アジア諸民族は日本を守護者かつ友邦とし仰ぎ見た。私は前大戦中のいろいろな出来事を思い出せるが、当時、アジア共栄のローガン(植民地解放・大東亜共栄圏樹立の構想)は、従属諸民族に強く訴えるものがあり、ビルマ、インド、インドネシアの指導者たちの中には、最愛の祖国が解放されることを希望して、日本に協力した者がいたのである。」

一九五一年五月、GHQ最高司令官ダグラス・マッカーサーはアメリカ上院の公聴会で発言し「日本の潜在労働者は、量においても質においても、私がこれまで知っている者の中の最も立派なものの一つである。しかし、彼らは労働力があっても生産の基礎手段を持たない。日本には蚕のほかに取り立てて言うべきものは何もないのだ。日本人は、若し原材料供給が断られたら一千万から千二百万が失業するの



さんに乗せて停泊していました。
◆先月ご紹介した、山門の二ホンミツバチは、鬼がわらの巣から目出度く新しい巣箱に引っ越しました。
普段目にする西洋ミツバチに較べて随分小型ですが、おとなしい性格だそうです。山門に向かって左側の屋根の下に巣箱があり、朝早くから忙しげに飛び回っています。◆今月の野草は二回目の登場です。ヘクソカズラ【あかね科ヘクソカズラ属】です。別名ヤイトバナ、サトメバナ。
『ヤイトバナ』は関西でいうお灸の痕という意味だそうです。どうせならもう一つの名前『サトメバナ』の方がふさわしいと思うのですが、如何でしょうか。
08/09 龍渉

◆お暑うございます。
慌ただしくしている間に立秋が過ぎて、『残暑お見舞い』になりました。
お元気にお過ごしのことと思います。
「次のお便りはもう少しましなものを。」と思ひながら、相変わらずの内容で申し訳ないことですが、少しずつでも読みごたえのある紙面作りに励みたいと思っております。そして、何よりも有り難いことは、形の有るなしにかかわらず、励ましのお言葉を戴くことです。
◆昨日は日中強い南風で、恒例の館山の花火大会が危ぶまれたのですが、夕方になって静かになり、見事な大輪の色とりどりの花が夜空に咲きました。小さな写真で恐縮ですが、ご覧下さい。
豪華客船にっぽん丸も、花火見物のお客



余滴

ではないかと恐れていた。それゆえに、日本が第二次大戦に赴いた目的は、その殆どが、安全保障のものであった。」と。

また、マレーシアの元外相ガザリー・シャフエーさんは、ある日本の代議士が先の大戦について謝罪したことを受けて、「どうしてそういう挨拶をなさるのですか。」

あの大戦で日本はよくやったではありませんか。マレー人と同じ小さな体の日本人が、大きなイギリス人を追い払ったではありませんか。

その結果、マレーシアは独立できたのです。大東亜戦争なくしては、マレーシアもシンガポールも、その他の東南アジア諸国の独立も考えられないですよ。」と、昭和六三年七月一九日、赤坂プリンスホテルでその代議士をたしなめたそうです。

平成三年、時の海部首相が東南アジア歴訪の際、「...多くのアジア・太平洋地域の人々に堪え難い苦しみと悲しみをもたらした我が国の行為を厳しく反省する。」という演説をした時は、現地の知日派の人たちに深い失望感を与えたということでした。

インドネシアの、もと新聞記者ヤン・ヴィダル夫人は、「ヨーロッパは五百年にわたってアジア・アフリカを搾取した。然し彼らは決して謝罪しないし、賠償金も払わない。五百年のヨーロッパが謝罪しないのに、三年半の日本が謝罪するのは外交音痴だ。もしもこれがイギリスや中国だったら『海部首相は利敵行為をした。彼は売国奴である。』と罵倒されるに決まっています。英・蘭・仏は何故謝罪も賠償金も払わないのか、研究しなさい。」と憤慨したそうです。

最後に、昭和四十一年、昭和天皇から勲一等瑞宝章を贈られた、東京裁判でただ一人日本の無罪を主張したインドのパール博士が、日本人に向けて書いたメッセージを紹介します。

【日本の皆さんに】

私がこの老齢、この健康で今度日本へまわりましたのは、日本の皆さんに対する私の敬愛の念を親しくお伝えするとともに、皆さんに東洋精神の尊厳さを再び確立して

いただくようにお願いしたいからでありました。東洋は今、大きな政治的ルネッサンスを迎えようとしており、東洋の諸国は日本に注目し、日本の奮起を期待しているのです。

現在、世界中で西洋化が進行しています。この西洋化は進歩に必ず付随する現象でしょうか。それとも、古代文明の例が示すように、崩壊の兆候にすぎないものでしょうか。ギリシャ、インド、バビロン、中国などの文明の歴史を大観してみると、文明の発達を計る基準は、領土の拡大に見られる環境の征服や、技術の進歩に見られる自然の征服ではないことが証明されていると思われまます。

われわれの聖者マハトマ・ガンジーは、この西洋文明の宿命を予見しました。そして、インドがみずからを救おうとすれば、現代の西洋の技術と西洋の精神を排斥しなければならぬ、という結論に達したのでした。この精神のシンボルが糸紡ぎ車（カダール）です。彼は、インドのすべての男女に、自国産の綿を手で紡ぎ、その糸を手織りにした綿布を身につけるように説きました。この手紡ぎこそ、インド国民の熱意とエネルギーを、物質的行動面から精神的行動面へと切り替える必要性の象徴だったのでした。

大英科学振興協会会長サー・アルフレッド・ユースティングが一九三二年の総会で、次のような発言をしています。

「科学は確かに人類に物質的な幸福をもたらした。だが、倫理の進歩は機械的進歩に伴わず、あまりに豊富な物質的恵みを処理できずに人類はとまどい、自信を失い、不安になっている。」

引き返すことはできない。どう進むべきであろうか」と。われわれすべてが直面している新しい推進力は、全人類の利益のために新興勢力が自由に活動できるように、全世界を打つて一丸とした社会を建設するのに用いられるでしょうか。それとも、われわれはこれから、史上に比を見ないこの強力な新しい力を、大昔から存在している

戦争、部族主義、奴隷制度などに悪用して、全人類の方向に向かって行くのでしょうか。

【日本の青年に】

自由の国、日本の青年の皆さん。あなた方もこの質問に答えなければなりません。いや、貴重な伝統という財産を持つあなた方こそ、この世界的問題に答える最大の義務があるのです。貴重な伝統という遺産と、輝かしい過去を想起するだけでなく、現在のあなた方の持つ潜在能力をも強く意識してほしいのです。

西洋の観察者の中には、すすで曇らせたメガネをかけて世界を見渡し、西洋化された表面だけを見、その下に燃えているその土地独特の火を無視して、自己満足している者が多くいます。つまり、わざと東洋の長所を目をつぶっているわけです。その連中の思いついた意見を受け入れてはいけません。人種的劣等感捨ててください。日本人は世界文明に創造的な寄与をしてきたのですから。

また、西洋の「分割して統治せよ」という政策を警戒してください。どんなに大切なイデオロギーのためであっても、分裂してはいけません。分裂している、その場かぎりのことでも絶対的なことに見え、肝心の重要問題から注意がそらされます。現在、全世界にわたってイデオロギーの戦争が進行中です。この戦争に勝つためには、建設的理念を持ち、相反する国際的、文化的イデオロギーを調和させなければなりません。イデオロギーの相違を固執してはいけません。

現代は過渡期であり、未来は現代にかかっています。現代は、伝統的に相いれない東洋文化と西洋文化が接触している時代です。お互いの文明の価値を破壊し合うのではなく、相互に補い合うようにすることこそ、次の時代のおもな仕事であるべきです。

若い日本の皆さんにお願いしたい。物質的に順応するだけではいけない。精神的に順応することがたいせつです。身近な仕事

や目的に順応するばかりでなく、大局的なビジョンに基づいて仕事や目的を決めていただきたいのです。人類社会に対する高い使命に燃えて、人生の意義を十分に発揮していただきたいのです。

【日本の若い女性に】

折しい環境に順応するのは、仕合は新しい生命力を必要とします。そのために社会が最も期待をかけるのは、若いひとたちの中でも女性、つまりあなた方です。

現在のあなた方は、知的にも道德的にももつとも感受性に富み、もつとも受容力の大きい時期にあります。学校教育から、本物とにせ物を見分ける能力、お国の将来を形成していく力についての知識を得てください。特に、宣伝にまどわされない判断力を得てください。

わざわざこういうのは、宣伝が大眾を支配するために案出された実に警戒すべき手段だからです。ほとんどの大国が宣伝省を持ち、有能な人を宣伝人臣に任命していることでも、その強力がわかります。宣伝の恐ろしさは、たえず感情に働きかけ、知らず知らずのうちに、自分の本性と矛盾することを信じ込まされる点にあります。

皆さんひとり残らず、どんなことに出会っても、勇気とやさしさと美しい魂とで、処理してください。皆さんひとり残らず、「世界を歩む美女は何万といるが／＼んなに飾り見せびらかしても／彼女の完全な美しさとくらべものにならない」と、尊敬の念をもっていわれるように行動されることを願っています。

(昭和四十一年十月十一日付朝日新聞夕刊)

少し長くなりましたが、引用させていたいただきました。

今まで聞いたことのない話に、改めて驚きました。そして日本って本当はどういう国なのか、日清戦争からこちらの、近現代のこの国についても一度自分から勉強して見たいと思います。